

時代環境変化の中で独自の道を切り開く、先進的企業の挑戦と特長ある現場に触れる

2015年度後期「異業種・独自企業研究会」

－ 日本の新成長戦略、今後日本の「技術開発」と「ものづくり経営」を考える －

と き・訪問見学先

講師とご講演テーマ

1 11月18日(水)



浜松ホトニクス㈱ 豊岡製作所新工場(静岡県磐田市)

『光をコアに、未知・未踏の領域に挑む』

浜松ホトニクス㈱ 代表取締役副社長 大塚治司氏

TVの父 高柳健次郎氏の意志を継ぎ、光電子(Photo-Electronics)技術の究極を目指す第一級の研究開発型企業。ヒッグス粒子存在確定に貢献し、世界シェア90%以上を占める光電子増倍管、宇宙誕生の謎に迫るフォトダイオード、光バイオ、医療機器用半導体素子、ナノホトニクス、等で世界に知られる。今期、2期連続の最高益予想を更に上方修正中。今年5月、増設の光電子増倍管工場が稼働。1月、中国に新工場完成。昨年、本社工場にフォトダイオードと関連製品の量産工場を増設した。



大塚治司氏

2 12月11日(金)



㈱アシックススポーツ工学研究所(兵庫県神戸市)

『世界のアスリートに選ばれるアシックスを目指して』

- Human Centric Science に基づくスポーツ用品の設計 -

㈱アシックス 執行役員 スポーツ工学研究所長 西脇剛史氏

1949年、学童用ズック靴の生産販売を目的に、社員4名で神戸市に創業した鬼塚㈱が前身。今日、世界のアスリートに選ばれるスポーツシューズメーカーに成長した。それを支えるのは、人間の運動動作分析により独自に開発した素材や構造設計など、人間の可能性を最大限に引き出すイノベーションな技術。今回は、そのアシックスの基幹、人間科学に基づくシューズ設計についてお話を伺い、その研究・開発現場を見学させていただく。



西脇剛史氏

3 2016年 01月28日(木)



日立化成㈱筑波総合研究所(茨城県つくば市)

『日立化成におけるお客様との協創』

日立化成㈱ 代表取締役社長 田中一行氏

同社は今、「情報通信・ディスプレイ」「環境・エネルギー」「ライフサイエンス」「自動車・交通インフラ」の4事業領域を中心に、絶縁ウニス、積層板、絶縁ガイシ、カーボンブラシなど4つの源流製品から発展した広範囲な基盤技術に基づき、幅広い事業展開を行っている高開発型企業。「未知の領域に踏み出すチャレンジ精神をもって、化学を超えた“新たな価値”を創造し、社会やお客さまの期待を超える“驚き”を実現する」が同社のモットー。



田中一行氏

4 02月09日(火)



日本ゼオン㈱ 徳山工場(山口県徳山市) 島賢治氏 産総研 NT実用化研究センター長

国プロ事業化の第1号 カーボンナノチューブ(CNT)の事業化

『ゼオンナノテクノロジーの創立と事業構想』

ゼオンナノテクノロジー㈱ 代表取締役社長 荒川公平氏

国プロ事業化の第1号。日本ゼオンが産総研開発のスーパーグロース法を用い、これまで量産困難が通説の単層CNTの事業化に着手。量産工場を立ち上げた。無機材料と無縁だった同社がナノテック最先端のCNTに進出したのは、同社特別経営技監 荒川公平氏 の存在。氏は曾て日機装でCNT製造の基本特許取得の中心だった人。その氏に産総研がこの実用化開発を打診したのが始り。今回はこれ迄に至る経緯と今後の具体的な経営の見通しを伺う。



荒川公平氏

5 03月16日(水)



㈱島精機製作所 工場(和歌山県和歌山市)

先進的発想と独創技術、驚異的基礎加工技術で実現された完全無縫製横編機他

『世界初を産み出し続ける島精機の挑戦』

㈱島精機製作所 代表取締役社長 島正博氏

縫い目ゼロ・全自動布袋編機から出発し、今日では電子化による3次元画像システムの独創的開発と展開など、先進的発想でファッションの多様化、低コスト化に迅速に対応。縫い目ゼロ・ニット衣料など、同社の完全無縫製横編技術は今日世界で高く評価され、エルメスやグッチなど海外ブランドでも導入。何より驚くべきは、同社のこの高速・精密無縫製横編技術の実現は、超精密研磨・研削技術他、驚異的高度基礎加工技術によって支えられていることだ。



島正博氏

6 04月06日(水)



マツダ㈱ 本社工場(広島県安芸郡)

『マツダのブランド価値経営 / イノベーションの現場から』

－ 開発・生産過程の効率化と商品開発努力への革新的取り組みと共に －

マツダ㈱ 代表取締役会長 金井誠太氏

世界一の高圧縮比と画期的燃費・トルクを実現させた新世代ガソリンエンジン車、また、従来の常識を打ち破った高いクリーン性と世界一の低圧縮比を実現したディーゼルエンジン車、今マツダはこの二つの系統を持つ画期的スカイアクティブ・シリーズを創出し、デザイン性・走行性も加わって、バブル期、リーマンショック時に陥った経営危機からV字回復を果し、史上最高益を記録中。今回は、その全社一丸となったマツダ復活への苦闘の軌跡をご披露願う。



金井誠太氏

チ
エ
ア
マ
ン



東レ㈱ 顧問、元代表取締役副社長 CTO
東レバッテリーセパレーターフィルム㈱
前代表取締役会長
田中千秋氏



(独) 国立科学博物館
産業技術史資料情報センター長
ものづくり日本大賞選考委員
鈴木一義氏

毎回の基本スケジュール

13:10~14:40 講演
14:40~15:10 Q&A
15:20~16:50 現場見学
17:00~18:00 ライトパーティー

※ ご同業の場合、見学のご遠慮を頂く場合があります

新経営研究会

<http://www.shinkeiken.com>